

あおいもんやすつぐ あおいしもさか
葵紋康継 (葵下坂)

10 月歌舞伎公演で上演中の『伊勢音頭恋寝刃』で登場する刀剣「青江^{あおえ}下坂^{しもさか}」。作者・近松徳三はこの名刀の詮議^{ちかまつとくぞう}を軸^{せんぎ}に物語を描きました。

「青江下坂」のモデルは、越前^{えちぜん}康継^{やすつぐ}が作刀した『葵紋康継』(葵下坂)といわれています。

初代康継の前銘は「肥後大掾^{ひごだいじょう}下坂^{しもさか}」、近江国(滋賀県)長浜市下坂出身で、越前北ノ荘藩主結城秀康^{ゆうきひでやす}(徳川家康次男)のお抱え刀工となりました。また、徳川家康・秀忠の両将軍^{たんとく}に鍛刀の技を認められ、「康」の字を賜って名を「康継」と改め、茎^{なかご}(刀剣の柄に被われた部分)に葵の御紋^{つか}を切る(彫る)ことを許されました。康継が作刀し葵紋を切ったものが、『葵紋康継』、『葵下坂』と称されています。

その後、二代康継の嫡男が江戸下坂家を、初代康継の三男が越前下坂家を継ぎ、両家はそれぞれ幕末頃まで存続し『葵紋康継』の作刀も引き継がれました。

今回、刀剣博物館(公益財団法人日本美術刀剣保存協会)の協力を得て、

『(葵紋) 康継以南蛮鉄於越前作之(越前三代)』※

(江戸時代前期: 17 世紀中期頃制作・株式会社銀座長州屋蔵)

を展示しております。

刃の長さは二尺二寸九分弱(69.3 cm)です。

※「康継^{なんぼんてつ} 南蛮鉄^{もつ}を以て 越前^おに於いて^{これ} 之を作る」

康継が越前で南蛮鉄(南蛮船で輸入された外国産の鉄。江戸初期に輸入が途絶えたため、江戸中期には希少な国内在庫が使用された。)を材料に用い作刀した。

おりかみ
折紙

『伊勢音頭恋寝刃』では刀剣の^{せんぎ}詮議を巡って折紙が重要な品として登場します。

折紙とは、江戸期に刀剣の研磨と鑑定を^{なりわい}生業とし将軍家に仕えた^{ほんあ}本阿弥家が、^み真贋^{しんがん}鑑定などの際に発行していたもので、現在の保証書のようなものです。

展示の折紙は元禄12（1699）年に、本阿弥家十三代：^{こうちゅう}光忠によって発行されたもので、刀剣博物館（公益財団法人日本美術刀剣保存協会）からご提供いただきました。

展示中の『葵紋康継』とは別の刀の折紙です。